

港区立白金の丘小学校
令和5年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・内容や事柄を正確に理解する力 ・内容や事柄を適切に表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○令和5年度全国学力・学習状況調査の結果、知識及び技能の情報扱い方に関する事項が他の領域に比べ課題が見られる。 【本校】66.5%【東京都】66.5% ○思考力、判断力、表現力等の書くこと分野が、他の領域に比べ正答率が低い。 【本校】34.9%【東京都】28.9% ○言葉の意味を正しく理解し、文章をつくることに課題がある。 ○接続詞や指示語を適切に使いながら、自分の考えや意見を文で表現することに課題が見られる。 ○前年度までの配当漢字を正しく書くことが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報と情報との関係付けの仕方や、図などによる語句と語句との関係の表し方に慣れるため、説明文・論説文等の指導方法を各学年で系統立てて指導する。 ○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書きたい内容を整理させ、推敲する活動を積極的に指導計画に取り入れる。 ○文章の中での言葉の意味を正確に理解し、例文を考えることができるよう、辞書を活用した授業を計画的に実施する。 ○説明文や物語文の学習の際にサイドラインを引き、指示語と指示語が指す内容の理解を深めていく。 ○朝学習等で漢字の書き取りの確認を行い、習得していない漢字についてはその時間の中で書き取りの練習をする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力 ・社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて社会へのかかわり方を選択・判断する力 ・知識・技能を活用する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を読み取り、課題や疑問を見付け、学習に関連付ける学習経験が少ない。 ○調べたことを基に、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題がある。 ○資料活用の力が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ学習を行い、互いに資料を共有し、課題や新たな疑問点を見付ける学習展開を増やす。 ○資料から分かることだけでなく、気付いたことや疑問点を見付ける等、資料を活用した学習を単元ごとに実施する。 ○自分で課題を見付けて調べる楽しさを味わえるよう指導を工夫する。 ○社会科で学んだことを基に、自分たちがすべきことを考えることができるよう、指導計画の中に取り入れたり、子ども同士で話し合う時間を設定したりする。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・求められていることを理解した上で、考えを整理し、表現する力 ・空間図形の構成要素を理解したり、想像力を働かせたりすることができる力 	<ul style="list-style-type: none"> ○記述問題や思考・判断・表現力を問う問題になると正答率が27%まで下がる。 ○図形や角に関する問題の正答率が42%と低くなる。 ○小数や分数などの計算になると、解答を導き出すために考える要素が増えるため、思考が整理できず、他の問題と比較して正答率が10～15%程度低くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章題においては、「分かっていること」、「求められていること」に下線を引くなどして、思考を整理する習慣を付ける。日頃の学習から、図や絵、言葉などで表現する機会を多く取り入れ、様々な表現方法に慣れる。 ○ICT機器を活用し、図形に触れる機会を多く設定することで、想像力を育む。 ○計算の際に、間違いやすい点やポイントを押さえることなどを確認してから問題を解く習慣を付ける。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然現象の差異点や共通点に気づき、問題を見いだす力 ・自然現象の変化や働きについて多面的に分析し考察して、より妥当な考えをつくりだす力 	<ul style="list-style-type: none"> ○身に付けた知識を応用して日常生活に結び付けたり、活用して新たな問題を見出したりすることに課題が見られる。 ○観察や実験において、結果を表やグラフに整理し予想と関係付けながら考察を言語化し、表現する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○比較の視点をもちやすいような事象提示を工夫することで、問題を見出すための視点が獲得できるようにする。 ○自然現象や自身の経験と結び付けることで、疑問点を見出せるようにする。 ○1つの結果から結論を導き出すのではなく、複数の結果の中から、多面的に分析できるように教材研究を行い、指導計画に盛り込む。 ○児童が事物・現象を実際に見たり、触れたりできるようにして、より実感を伴った学びにつなげる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって学習する力 ・学びを深める力 ・学び合いの力 ・自分の思いや願いを実現させようとする力 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己と他者との違いに気付いたり、新たに気付いたりすることが少ない。 ○知識・技能面だけでなく、思考する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校外学習等を通して、学校生活を支えている地域や友達について考え、様々な人や施設と学校が関わっていることを具体的に気付かせるようにする。 ○授業の振り返りの時間では、自己評価や児童相互の認め合いの時間も組み入れ、児童の思いや願いを実現できるような授業づくりを行う。 ○活動の様子を細かく見取り、児童の気付きを価値づける。友達や地域との交流場面を意図的に設定し、気付きの量ではなく、質を高められるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱、器楽演奏の表現力や技能 ・音楽の表現や鑑賞に関する表現力や言語能力 	<ul style="list-style-type: none"> ○二部合唱において、各声部の音程を覚え、自信をもって歌うことに課題がある。また、リコーダーの運指に不安を感じている児童が多い。 ○学習の中で気付いたことを自己の演奏やワークシートへまとめる等、自分なりの表現に生かしていくことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な発声やリズム練習を日頃から習慣化し、学校行事(白丘 Sound Festival)を通して表現の技能を高める。また、演奏の技能を向上させるため、ICTを活用して個々の児童に対応した分かりやすい指導を行っていく。 ○友達とタブレットを使用して意見交流したり、音楽鑑賞の語彙集を配布したりする等、言語活動の充実を図る。また、クラスや学年間で演奏を聴き合う場を設定し、音楽的な思考を深め、自己の演奏に生かしていく。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解する力 ・造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の感覚や行為を通して対象や事象を捉える力や、自分の感覚や行為を通した造形的な視点をもつ力は概ねあるが、創造的に材料や用具を使ったり、表し方を工夫したりする力に個人差がある。 ○形や色などを基に、表したいことや表し方を考えることは概ねあるが、作品などに対する自分の見方や感じ方を深める力や、造形的な特徴を基に、創造的に発想や構想をする力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のイメージを基に考えたことや、想像したことを自分らしく表現できるよう、多様な表現方法を知らせたり、より多くの材料や素材に慣れ親しませたりする。 ○自分の思ったことや想像したことを様々な表現技法や素材を選んで表現できるよう、多様な表現のよさや面白さを体感させる。 ○学習の見通しを立てたり、学習を振り返ったりすることで、自分の学びや変容を自覚できる場面を設定する。 ○学びの深まりをつくりだすために、児童が考える場面と教員が教える場面を効果的に組み立てる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを家庭生活に生かす力 ・生活を見つめ、家庭生活をよりよく工夫する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に生活経験が不足しており、経験がある子とない子に個人差がある。 ○テレビやネットなどで知識を得たり、ICTや動画を活用した調理や裁縫の仕方を理解したりすることはできるが、実習で生かしたり、実践したりすることが難しい。 ○日常生活の中から問題を見出して課題を解決しようとする力はあるが、個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習を多く取り入れることで、生活経験の差を縮め、自ら家庭生活に関わろうとする姿勢を育てる。 ○調理や裁縫の実習では、ICTを活用したり、PTA(おかサポ)と連携したりして、安全・安心して取り組めるようにする。 ○身近な生活の中にある課題に目を向け、様々な解決方法を考えて実践するという経験を積むことができるようにする。

	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な動きの習得 自分の能力を高めようとする力 	<p>令和4年度体力テストから</p> <ul style="list-style-type: none"> ○上体起こし、20mシャトルランの平均値は、男女ともに全国平均、東京都平均よりも低い傾向にある。 ○特に、ソフトボール投げの平均値は、男女ともに低く、数年の間課題が続いている。 ○立ち幅跳びの平均値は、男女ともにほとんど東京都平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な動きのある運動遊びや補助運動を繰り返し取り入れたり、動画を使って動作の確認をしたりして、基本的な動きを身に付けさせる。また、楽しみながら取り組める活動を授業の中で継続的に設定し、筋力や持久力を高められるようにする。 ○運動能力に差が見られるので、児童が能力に応じて場を選択できるようにしたり、友達と協力して、一緒に楽しく運動したりできる課題を設定する。また、学習カードやペア学習を通して、技能ポイントや友達の動き(上手な動き)を意識させることで、課題解決の道筋を立てられるようにする。 ○自分やチームの課題に向き合い、主体的に取り組む力を身に付けられるよう、課題解決の場を意図的に設定し、指導計画に組み入れる。 ○単元後半になると意欲が低くなりがちなクローズド型の学習では、記録の伸びや技の完成度が実感できるようにし、意欲が高められるようする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや思いを学習した表現を用いて表す力 積極的にコミュニケーションをとろうとする力 	<ul style="list-style-type: none"> ○新出の英語表現は聞くに留まってしまう、実際の会話場面では活用することが難しい。 ○人と話すことに慣れていない、自分のことを話すのが恥ずかしい、英語が苦手で分からない、英語での指示が分からない等の理由から、積極的にコミュニケーションをとることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや思いが表現できるようになるため、準備段階の活動を工夫する。単純な単語・文章練習に留まらず、ゲームやペア・グループで多くの発話練習をすることで、自分の考えや思いを伝える機会を意図的に増やす。 ○児童が話したくなる目的や場面、状況等を設定する。NTとも連携し、児童がコミュニケーションをとる楽しさを実感できるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 価値を捉え理解する力 道徳的価値を深める力 相手の立場に立って考える力 共感する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の発言や振り返りから、一面的な見方や考え方をしている様子や自分ごととして捉えきれない様子が見られる。 ○道徳の時間の指導が道徳的価値の理解に偏りがちで、自分の思いを伝え、相手の思いを酌むためにはどうしたらよいかという話し合いの時間が短くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○見解をより広げていくために、ペアやグループでの意見交流を取り入れ、全員が自分の意見を言える場を設定していき、多角的に考えることができるようにする。 ○授業で深まったことを日常生活で生かそうとする態度を育てるため、日々の生活の中で道徳的価値のある体験や言動を取り上げ、自分たちの生活につなげる。 ○補助発問を追加することで、様々な議論が起こる土台を作れるようにする。 ○毎時間、授業の振り返りを書く。学習したことを振り返ることで、自分と向き合い自分の心の在り方や生き方を深く考えられるようにする。

特別活動	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動を進める力 ・見通しをもって取り組む力 ・他者の考えを受容する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級の実態に合う話題が設定されておらず、話し合いがうまく進まない。 ○学級会や係活動において、見通しをもてず、話し合いや活動が停滞してしまうことがある。 ○話し合いでは、他の意見の良さを認めたり、建設的な話し合いをしたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級会ノートを活用した振り返りを行い、必然性のある課題を設定できるようにする。 ○学級会では、司会台本を用いたり、事前に司会の班と打ち合わせをしたりすることで、話し合いの見通しをもてるようにする。 ○係活動では、計画書を活用し見通しをもたせる。必要に応じて個別に声かけをしたり、活動報告の機会を設けたりして活性化を促す。 ○高学年では、委員会活動やクラブ活動を通して、学校のため、同じクラブの友達のためという意識をもって話し合わせる運営を年間通して行うことで、他者意識をもちながら活動に取り組めるようにする。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を設定する力 ・よりよく問題を解決する力 ・主体的・協働的に取り組む力 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら関心をもって新しい課題を設定することが難しい。 ○複数の情報から精選し、整理・分析・解析して、伝わりやすくまとめることが難しい。 ○発表ではまとめた資料を読むだけになるなど、表現の工夫の不足、経験の不足が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実生活の中から課題を見出せるような導入の工夫をする。図書資料やタブレット端末などを使用し、興味、関心を広げる。 ○活動の目的や価値を明確にし、他者との意見交換、協働を通して、情報を整理しまとめられるようにする。 ○友達同士や異学年で交流し合い、発表する経験を増やして、よりよい表現の方法を身に付けられるようにする。